

## 教育講演 I

# 地域で最も必要とされる作業療法の視点

安井敦史 氏

株式会社 UT ケアシステム

超少子高齢化社会が益々進んでいく我が国では、団塊の世代が「後期高齢者」となる2025年に向け「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。さらに2025年が近づく今日は、団塊ジュニアが後期高齢者となる2040年を見据えた制度設計を行っています。

以前、「時々入院、ほぼ自宅」といった新聞記事が載っていたこともありましたが、これから社会は、「子供からお年寄り、障がいの有無に関わらず、住み慣れた地域で暮らし続けられること」が求められています。

そのような社会が良いものになるには、作業療法の視点と親和性が高いと日々思っています。作業療法士は、「ひと・生活・環境」をみる視点での思考過程が、地域で暮らす人々の「その人らしさ」を支援することができる職種であると思います。

同時に地域包括ケアでは、「自立支援」についても重要視されています。「自立支援」は、日常生活や地域での日々の暮らしの中で「生活のしづらさ」をアセスメントし、有効な支援を行うことになりますが、この点についても、作業療法士の視点が非常に有効となります。

国をはじめ、奈良県と39の市町村でも「地域包括ケアシステム」の構築と「自立支援」の体制を整えようとし、奈良県作業療法士会とも良好な関係を築いています。地域で子供からお年寄りまで、その人らしい生活を送ることができるようだけではなく環境にも広くかかわり支援ができる作業療法士の活動や、今後さらに必要とされる活動について理解がひろがり、今以上に地域で活動する作業療法士が増えることが求められています。

## 講師略歴

---

恩賜財団 済生会中和病院

医療法人厚生会 奈良厚生会病院

医療法人友絃会 西大和リハビリテーション病院

株式会社 UT ケアシステムに在籍